

《各学年の特徴》

- 1年 数に興味をもち、意欲的に取り組む児童が多い。問題を理解する力、計算する力には個人差がある。
- 2年 問題の場面を考え、意欲的に取り組む児童が多い。基本的な計算を正しく行うことができるが、数感覚に個人差がある。
- 3年 問題の場面を考え、意欲的に取り組む児童が多いが、正しく立式したり計算したりすることが不得手の児童が見られる。
- 4年 問題の場面を考え、数学的な表現処理に意欲的に取り組む児童が多いが、正しい立式や技能の習得に課題がある児童が見られる。
- 5年 問題の場面を捉え、図や表に表して解けるようになってきた。定規やコンパスを使って正しく描いたり、定規や分度器で正しく測ったりすることが不得手の児童が見られる。
- 6年 基礎的・基本的な計算の力に個人差があるが、問題文の場面を捉え、図や表、グラフに表して解くことができる児童が多い。

《学力調査から見られる指導の重点》

- ・全ての領域において、求め方や考え方を式と言葉などを用いて、説明することができる。
- ・「割合」において、基にする量、比べられる量の関係を理解し、立式することができる。

育てたい力（課題）

- 1年 基本的な計算方法を理解して、計算する力。
- 2年 時間や長さ、かけ算などを、日常生活で活用できる力。
- 3年 問題場面から正しく立式する力、正確に四則計算をする力。
- 4年 四則演算を使って正確に計算する力、分度器やコンパスの活用に慣れ、図形の特徴をとらえて描ける力。
- 5年 課題を適切に捉え、自分なりの解決方法を考えて見通しをもって解く力。
- 6年 既習の学習を生かし、新しい計算の仕方や問題の解き方を考える力。

☆授業改善の具体策☆

- ・習熟度別指導の効果的な実施
- ・個に応じた指導の充実
- ・東京ベーシックドリルの活用
- ・モジュール指導の有効活用
- ・既習事項の掲示
- ・既習事項を活用する授業展開
- ・ノート指導の充実
- ・ドリル、プリントによる繰り返し学習
- ・ICT機器の活用(スクールタクト、コラボノートEX、eボード)

- 1年 具体物の操作を通して、正しくたし算やひき算ができるようにする。
- 2年 時間や長さ、かけ算九九、筆算等の基本的な知識や技能を、繰り返し練習し、身に付けるようにする。
- 3年 習熟度別指導を充実させ、四則計算の技能の定着を図る。
- 4年 習熟度別指導を充実させ、四則の関係、平面図形と立体図形、面積などの知識や、整数、小数および分数の計算をしたり、図形を構成したりする技能を身に付ける。
- 5年 習熟度別指導を充実させ、小数や分数の計算や、表やグラフに表したりすることなどについての技能を身に付ける。
- 6年 習熟度別指導を充実させ、分数の計算をしたり図形を構成したりすることなどについての技能を身に付ける。

- 1年 絵や図に表したり、具体物を操作したりする活動を通して、考える場面を多く取り入れる。
- 2年 図や絵、式、言葉等を用いて考え、説明する活動を多く取り入れる。
- 3年 必要に応じて具体物や図などを用いて、問題の場面を具体的に想像しやすくすることで、立式する力や数の表し方や計算の仕方を考察する力を養う。
- 4年 目的に合った表現方法を用いて計算の仕方を考察できるように、数の表し方や数量関係に着目するように言葉掛けをする。図形の性質について考察できるように、これまでに学習してきた図形の性質を振り返ったり、具体物を提示したりする。
- 5年 数の表し方や計算の意味に着目させることで、目的に合った表現方法を用いて、数の性質や計算の仕方などを考察できるようにする。
- 6年 様々な計算の仕方から、適切な方法を選んで分析を行い、自分の考えを書くことができるようにするために、既習事項を振り返り、数学的な表現の良さを意識させる。

- 1年 問題に繰り返し取り組む活動を取り入れ、学習したことを生活や今後の学習に生かせるようにする。
- 2年 多様な考えの良さを見付け合う活動を多く取り入れ、学習したことを生活や今後の学習に生かせるようにする。
- 3年 数学のよさに気づき、学習したことを生活や学習に生かせるよう、既習事項を活用する授業を展開する。
- 4年 数学的な表現処理のよさに気づき、学習したことを生活や学習に生かせるよう、既習事項を活用した授業を展開する。
- 5年 数学的な表現処理のよさに気づき、多面的に捉え検討して、より良いものを考える。
- 6年 数学的に表現したことを振り返り、多面的に捉え検討して、より良いものを考える。

《知識及び技能》

《思考力・判断力・表現力等》

《学びに向かう力》